



【指導事例 1】

- 1 主 題 「支え合いや助け合いに感謝して」〔感謝〕
- 2 ねらい

自分の生活を支えてくれている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、北海道最北の造り酒屋を営んだ本間泰蔵の功績に触れることを通して、自分を支えてくれる人々に対する感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする態度を育てることをねらいとしています。

前半では、小樽の呉服店で働いていた本間泰蔵が、主人に商才を認められて反物を譲り受け、ニシン漁でにぎわっていた増毛に移り住み、わずか数年で商売を成功させるとともに、実直な仕事ぶりから増毛の人々の信用を得るまでの様子が示されています。

後半では、大火事で商売道具の全てを失ったにもかかわらず、多くの人からの助けを得て、すぐに店を立て直した本間泰蔵の様子と、そのような人々へ感謝の念を表すために、人々に振る舞うための酒造りを始めたり、荒波の不自由さの解消のために大型船を購入したりした本間泰蔵の思いや行動について触れています。

指導に当たっては、自分の力だけで生きてきたのではなく、多くの人々の支えや助け合いのおかげで今の自分があることやそれに応えようとする生き方について考えを深めていくことが重要です。

4 展開例—①「本間泰蔵と人々の支え合いについて話し合う活動を通して、感謝について考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の生活を支えてくれている人について考える。 ○ 今の自分がここまで成長できたのは、どうしてだと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族のおかげだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で、自分の生活を支えてくれている人を想起させ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「人々に愛された豪商」を読み、話し合う。 ○ 本間泰蔵が、「ありがとうございます。このご恩は決して忘れません。」と言ったのはなぜでしょうか？ <ul style="list-style-type: none"> ・何倍以上の価値のある反物を譲ってくれたから。 ・「その才能を活かしてもらうことが、今の私の一番の望みなのだ。」と言ってもらえたから。 ◎ 自分なら、町の人々のために大型船を購入しますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・大火事になったとき、町の人々に助けってもらったから今度は自分が町の人々のために力を尽くす。 ・今まで助けてもらったので、大型船を購入して感謝の思いを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の写真を見せる。 ・登場人物が、反物を譲ってもらったときの気持ちを話し合い、感謝についての価値理解を深めることができるようにする。 ・今の自分があることに感謝し、それに応える泰蔵の思いや行動について考えたことを多面的・多角的に話し合い、人間理解、他者理解を深めることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分を支えてくれている人に対しての気持ちやそれに応える方法について考える。 ○ あなたの身の周りでは、どんな人が自分の生活を支えてくれていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・学校の先生 ○ 自分の生活を支えてくれている人がしてくれたことで、どんなことがうれしかったですか。また、その人たちに、あなたはどのような思いをもっていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・育ててくれている家族に感謝している。 ・学校の授業や習い事の練習で教えてくれていることに感謝している。 ○ 自分の生活を支えてくれている人たちに、あなたは今後、どんなことをしていきたいですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上にしっかり勉強を行っていく。 ・期待に応えられるように、自分にできることを全力で取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返るなどして、自己理解を深めることができるようにする。 ■ 自分の生活を支えてくれている人に感謝の気持ちを持ち、それに応えようとする思いについて、自分との関わりの中で考えている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 感謝をテーマとした詩を読む。 ※感謝に関する詩を読むことで、様々な人たちの思いを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に感謝し、それに応えようとする態度が養われるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「困難があってもくじけずに」〔努力と強い意志〕

2 ねらい

より高い目標を立て、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く態度を育てる。

3 展開例—②「本間泰蔵が経験した困難について話し合う活動を通して、努力について考える展開」

4 主な学習活動

(1) 「ありがとうございます。このご恩は一生忘れません。」と言って、目からは大粒の涙がこぼれたとき、本間泰蔵はどんなことを考えたのでしょうか。

- ・本当にありがとうございます。
- ・商売を成功させるぞ。
- ・主人の思いにこたえるために、一生懸命がんばるぞ。

(2) 1880年の大火事で商売道具の全てを失った時、自分ならどんな思いになりますか。

- ・もう一度、一からやり直そう。きっとまた商売ができる。
- ・これからも商売をしていきたい。
- ・まだまだやり残したことがあるので、がんばりたい。

(3) 自分なら、商売の道が続けることができますか。

- ・呉服屋の主人の期待に応えるために続けていきたい。
- ・町の人の役に立ちたいという思いがあるから続ける。
- ・困難なことがたくさんあったら、続けられないかもしれない。

□ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 社会科

水産業の学習において、本教材を活用することを通して、留萌地方が、昔はニシン漁が盛んだったことや、当時のニシン漁の様子についての理解を深め、地域への愛情を深めることができるようにする。

■ 家庭科

感謝や励ましの気持ちを伝える学習において、本教材を活用することを通して、自分は周りの人々に支えられて成長してきたことに気付き、身近な人々への感謝の気持ちを伝える方法について考えることができるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

学級や学校における、よりよい生活づくりへの参画に関する指導において、本教材を活用することを通して、多くの人の支え合いや助け合いにより集団生活が充実することや、感謝の気持ちをもつことの大切さについての理解を深め、残りの学校生活で何ができるのかを考えることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、道徳ノートに保護者の思いを記入してもらい児童に伝えるなどして、児童の実践意欲と態度を高めることができるようにする。